

2018年度 第3回日本語研修会（北部）【台北・台中】

小山 悟（九州大学）

1. 実施場所・日時

(1) 台中会場：2019年1月25日（金）10:00～12:00／13:30～17:00

国立台中科技大学 中正大樓6樓（台中市北区三民路三段129号）

(2) 台北会場：2019年1月26日（土）10:00～12:00／13:30～17:00

日本台湾交流協会台北事務所 B1文化ホール（台北市慶城街28号）

2. テーマ

「日本文化の学習と日本語学習の融合—ジグゾー法による授業—」

3. 概要紹介

この研修は、高校生向けの特別授業と教師向けの研修会の2部構成で行いました。午前中の特別授業では、研修に参加される先生方のご要望もあり、現在筆者が取り組んでいる「ジグゾー法」を用いた（日本語による）日本文化の授業をご覧いただきました。また、午後の教師向け研修では先生方に（午前中の特別授業とは異なる）ジグゾー法を体験していただくと共に、筆者がこれまで行ってきた「トピックベースの教材開発」と、現在行なっている「コンテンツベースの授業デザイン」について講義をさせていただきました。

4. 具体的な内容 —ジグゾー法による特別授業について—

台中会場：『みんなの日本語2』を学習中の学生たちを対象に「日本の国民食」をテーマとした授業を行いました。日本のあるテレビ局が日本に住む外国人に「日本の食べ物で何がおいしかったか」を尋ねたところ、寿司や天ぷらに混じって「焼肉」や「ラーメン」、「カレー」などがベスト10に入ったそうです。また、日本の小学生に調査した好きな料理ランキングでも「カレー」「ハンバーグ」「ラーメン」の3つが（昭和生まれ・平成生まれの両方で）ベスト10に入ったそうです。そこで、外国から来た数ある料理の中でなぜこれらの料理が日本の「国民食」として定着したのかを、「カレー」「ハンバーグ」「ラーメン」の歴史に関する資料を各自が分担して読み、互いが学んだ知識を持ち寄って統合した後、「外国から来た料理でも_____国民食になる」の空欄に入る言葉（国民食化の条件・法則）をグループで考えるという活動をしました。また、その後応用課題として「その法則に当てはまる台湾の料理は何か」（＝日本に紹介すれば近い将来日本の国民食になるかもしれない料理は何か）などについても考えてもらいました。

台北会場：「日本の観光地」をテーマにした授業を行いました。用意された3種類の資料には日本の5つの観光地（金沢・鹿児島・松山・神戸・仙台）に関する情報がそれぞれ部分的に紹介されており、学生たちは互いの資料に書かれた情報を持ち寄った後、その5つの観光地が何県何市であるかをグループで考えました。またその後、ある旅行会社が調査した「日本人が訪れた国内旅行先ランキング」について紹介し、札幌や京都、那覇などの外国人にも人気のある定番の観光地に混じってランクインした「石川県金沢市」について「何が日本人にとって魅力的なのか」「金沢市とよく似た特徴を持つ（日本人の知らない）台湾の観光地はどこか」などについても話し合ってもらいました。なお、この特別授業には2つの高校から日本語の学習進度の異なる学生が参加したため、資料は同じ内容を『みんなの日本語1』の前半レベルの文型・文法を使って書いたものと、『みんなの日本語2』レベルの文型・文法を使って書いたものの2種類を用意しました。これにより、ジグゾー法が同じクラスにレベルの異なる学生がいても実践可能な教授法であることを見学者の先生方にご理解いただけたのではないかと思います。

5. 所感

ジグゾー法はもともと協調学習の観点から中学や高校の教科理解のために開発された教授法で、外国語教育では（中学・高校の英語の授業以外）あまり用いられてきませんでした。ですが、今回「日本文化をテーマにした日本語の授業を」という要望を受け、この機会に（新たな授業方法のアイデアとして温めていた）ジグゾー法を用いた授業実践にチャレンジしてみようと考えました。当日の学生たちの反応を見た限りでは、1～2度体験することで学生たちがこのような授業方法に慣れ、私たち教師が学生たちの創造的思考を促すような適切なテーマとゴールを設定できれば、ジグゾー法は日本語の授業を（言語技能の訓練で終わることなく）高校・大学の教科として相応しいものに変えられる大きな可能性を秘めた教授法であると確信しました。皆さんも是非チャレンジしてみてください。